五月宝生会　月並能

五月十日（日）
午後二時始
開場　午後一時
於　宝生能楽堂

演目の解説

能「千手」（せんじゅ）

一ノ谷の合戦で敗れ、源氏方に捕らわれた平重衡は、狩野介宗茂の朝のとこらろで処刑を待つ身でした。頼朝は、重衡を慰めるべく遊女千手と伺い候うの連日、琵琶や琴をを持参しるべく相手をし、宗茂もてたて重衡をの大切にいしたて、三人の雨中のに、酒をいまし持ちて、朗詠を口ずさみ、酒宴がはじまり、千手が舞を舞っていつしか明けやすまも近くなり、琴を枕の短夜が明けると、刑場に旅立つ重衡を、千手は泣く見送るのでした。儚い一夜の泣く物語。

狂言「富士松」（ふじまつ）

無断で旅に出た太郎冠者を主人が叱りに来るが、富士詣をしてきたと詫びると許す。取ってきた富士松がと欲しいという主人の要求を断ろうと、太郎冠者は酒を飲ませるが、連歌にうまく付けられるなと、人は松を持っていくと言い出すと。次々と歌を読みかける主人に、見事に句を応酬すると。太郎冠者だが…。数人で白味や歌言葉順番にる詠み合い、発想の面の中世に貴族・庶民を問わず大流は、イメージの変化を楽しむ連行しました。狂言の中でも特に機智に富む太郎冠者の、主人との掛け合いをたっぷりと楽しみください。

能「大江山」（おおえやま）

源頼光とその一行は、帝の命を受け酒呑童子という鬼を退治するために、大江山深く分け入り、途中で宿を出会った洗濯女の手引きで館を出めました。酒呑童子は出家にはなまさめます。酒呑童子の手をのなまいは、童子そのまま約束があって、大江山に来てに対面し、姿で頼光達をなつた次第を語り、酒を勧めることなつた次第を語り、酒を勧めると自らも呑み、大酔って寝てしまいました。寝所に入って油断を攻め込むと童子は鬼の本体を現し、恐ろしい姿で戦いますが、ついに退治されてしまいます。

14:00

千手

重衡　小倉伸二郎
シテ　山内崇生

ワキ　高井松男

大鼓　國川純
小鼓　森澤勇司

笛　藤田次郎

後見　小倉敏克
　　金森秀祥
　　佐野玄宜

地謡　藪克徳
　　澤田宏司
　　小林晋也
　　大友順
　　當山孝道
　　高橋章
　　亀井保雄
　　今井泰行

15:25

富士松

野村万作

石田幸雄

16:00

大江山

シテ　朝倉俊樹

ワキ　福王知登

ワキツレ　福王和幸
〃　村瀬提
〃　村瀬慧
〃　矢野昌平

間　高野和憲
〃　内藤連

大鼓　飯嶋六之佐
小鼓　田邊恭資

太鼓　梶谷英樹
笛　槻宅聡

後見　宝生和英
　　東川光夫
　　高橋憲正
　　東川尚史

地謡　亀井雄二
　　和久荘太郎
　　水上優
　　小倉健太郎
　　金井雄資
　　前田尚廣
　　佐野由於
　　辰巳満次郎

〈休憩十五分〉

終演予定　十七時四十五分頃

次回予告

二〇二〇年六月十四日（日）
十四時始

通盛　大坪喜美雄

邯鄲　藤井雅之

文化庁文化芸術振興費補助金
（劇場・音楽堂等機能強化推進事業）
独立行政法人日本芸術文化振興会